

トリとロキタ、アフリカからベルギーへの道中で出会った偽りの姉弟。
ふたりを繋ぐ強固な絆が断ち切られませんように——観客は固唾をのんで運命を見守る。

理不尽な世にもあそばれる二人を
スクリーンで隔てた安全な場所から見ていることに
後ろめたさを感じながらも、
一瞬たりとも目をそらすことができませんでした。

城定秀夫 (映画監督)

トリとロキタが共に走り、笑い、歌う、
その全てが愛おしかった。

誰もその時間は奪えないはずなのに、奪われてゆく。
ダルデンヌ監督にこの映画を作らせた、
「移民・難民が存在しないかのようにされている」ことへの怒りは、
遠い他国のことではなく、私たちのすぐ近くの日常にも深く繋がっている。
必見の作品。

川和田恵真 (映画監督「マイスマールランド」)

自力で生きていこうとする難民の子供の過酷な生活は
フィクションと思えないほど生々しく描かれています。
肉親以上に互いを頼りにする姿に
心を打たれます。

ピーター・バラカン (ブロードキャスター)

2人の若い俳優の存在感は映像にギリシャ悲劇の力強さを与え、
彼らの生の軌跡は先進国の暗い現実を限り取り、切り裂く。
これはダルデンヌ兄弟の到達点だ。

池田香代子 (脚本家)

現実1. 弱い者がより弱い者を利用する。
現実2. 弱い者がより弱い者と支え合う。
現実3. 強い者は見えない。だが世界の構造を形作る。

望月優大 (ライター)

離れたくない、ただそれだけ。

あまりに理不尽で悲惨な状況にも、深い友情で対抗し、
もがき続ける二人の姿に、胸が張り裂けそうで、
鑑賞後はしばらく放心状態でした。
映画ファンだけでなく、全ての人が観るべき作品だと思います。

井之脇海 (俳優)

トリとロキタの願いはただひとつ。
ただ一緒にいたいだけ。

そのとき二人は本物以上に本物の姉と弟となり、真の家族となる。
しかし、そんなささやかな幸福すら二人には許されないのか？
形式的な善意、むき出しの暴力、そして何より私たち自身の無関心が、
支えあう二人を引き離そうとする——

小野正嗣 (作家)

「不法滞在」「犯罪者」というレッテルをはられ、
人格を剥ぎ取られて伝えられる「ニュースの中の人々」。
映画なら、一人ひとりの命の輪郭に
触れることができる。

トリやロキタのような存在に「出会う」ことができるから。

安田菜津紀

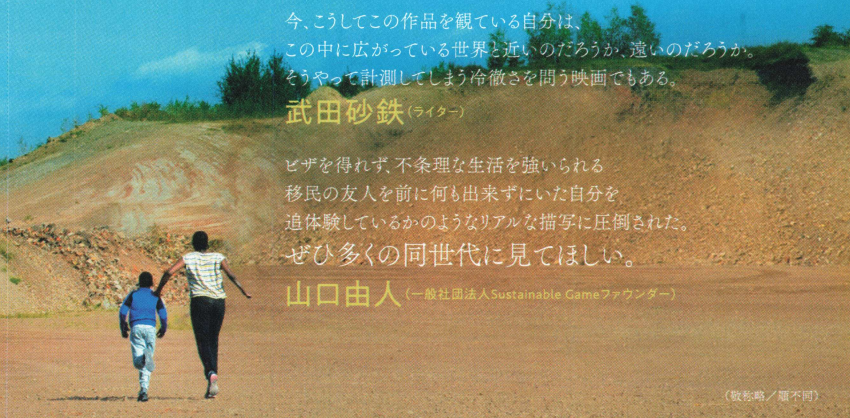
(認定NPO法人Dialogue for People 副代表 / フォトジャーナリスト)

今、こうしてこの作品を観ている自分は、
この中に広がっている世界と近いのだろうか、遠いのだろうか。
そうやって計測してしまう冷徹さを問う映画でもある。

武田砂鉄 (ライター)

ピザを得れず、不条理な生活を強いられる
移民の友人を前に何も出来ずにいた自分を
追体験しているかのようなリアルな描写に圧倒された。
ぜひ多くの同世代に見てほしい。

山口由人 (一般社団法人 Sustainable Game ファウンダー)



(撮影略/順不同)



監督・脚本:ジャン=ピエール&リュック・ダルデンヌ 2022/ベルギー=フランス/89分 配給:ピタース・エンド カトリック中央協議会推薦 文部科学省選定 青年向き/成人向き Photo:Christine Plenus
©LES FILMS DU FLEUVE - ARCHIPEL 35 - SAVAGE FILM - FRANCE 2 CINÉMA - VOO et Be tv - PROXIMUS - RTBF (Télévision belge) bitters.co.jp/tori_lokita @Dardenne_cinema @Dardenne.cinema



初日プレゼント ベルギーの国民的スイーツ・ワッフルを、日本にいち早く紹介したマネケンのベルギーワッフル(プレーン)を3/31(金)に
ご鑑賞のお客様に先着でプレゼント!提供:株式会社ローゼン manneken.co.jp 配布劇場:ヒューマントラストシネマ有楽町、新宿武蔵野館、渋谷シネクイント

3/31(金)ロードショー!
オンラインムビチケ¥1,500(税込)発売中!
上映劇場・ムビチケ購入はこちら▶



有楽町イシアイトシアプラザ 4F
「テアトルシネマ」グループ
ヒューマントラストシネマ有楽町
03-6259-8608 ttcg.jp

JR新宿駅中央東口 徒歩2分 武蔵野ビル3F
新宿 武蔵野館
03-3354-5670
shinjuku.musashino-k.jp

JR渋谷駅ハチ公口 渋谷ロフト前 三葉ビル7F
渋谷 **シネクイント**
03-3477-5905
www.cinequinto.com

東京	kino cinéma 立川高島屋S.C.館 042-512-5162	神奈川	kino cinéma 横浜みなとみらい 045-264-4572	千葉	千葉劇場 043-227-4591	千葉	シネマクスピアリ 047-305-3855	埼玉	イオンシネマ浦和美園 048-812-2055
北海道	シアターキノ 011-231-9355	新潟	イオンシネマ新潟西 025-230-8787	愛知	伏見ミリオン座 052-212-2437	大阪	シネ・リーブル梅田 06-6440-5930	大阪	シネマート心斎橋 06-6282-0815
京都	京都シネマ 075-393-4723	兵庫	シネ・リーブル神戸 078-334-2126	広島	イオンシネマ広島西風新都 082-941-7070	福岡	KBCシネマ 092-751-4288		

●4/14(金)~【群馬】シネマテークたかさき 027-325-1744 【宮城】フォーラム仙台 022-728-7866 ●4/15(土)~【大分】シネマ 097-536-4512 ●4/21(金)~【福島】まちはれいわき 0246-22-3394 【長野】長野ロキシー 026-232-3016 【岡山】シネマ・クレーン 086-231-0019 【熊本】Denkikan 096-352-2121 【宮崎】宮崎キネマ館 0985-28-1162 【鹿児島】天文館シネマパラダイス 099-216-8833 ●4/22(土)~【茨城】あまや座 029-212-7531 【富山】ほとり座 076-422-0821 【沖縄】桜坂劇場 098-860-9555 ●4/28(金)~【岩手】盛岡ルミエール 019-625-7117 【福島】フォーラム福島 024-533-1717 【三重】津富座 0596-28-2875 【静岡】シネ・ギャラリー 054-250-0283 【広島】福山駅前シネマモード 084-932-3381 ●4/29(土)~【神奈川】川崎市アートセンター 044-955-0107 【愛媛】シネマルナティック 089-933-9240 ●4/29(土)30日【長野】松本CINEMAセレクト 0263-98-4928 ●5/5(金)~【佐賀】シアターシエラ 0952-27-5116 ●5/12(金)~【山形】MOVIE ONやまがた 023-682-7235 ●5/13(土)~【石川】シネモンド 076-220-5007 【福井】福井メトロ劇場 076-222-1772 ●5/19(金)~【神奈川】あつぎのえいがかんkiki 046-240-0600 ●近日【静岡】浜松シネマ_ea 053-489-5539 ほか、全国順次公開



第75回 カンヌ国際映画祭75周年記念大賞

FESTIVAL DE CANNES
PRIX DU 75^e
2022

第70回サンセバスチャン国際映画祭 バスク国2030アジェンダ賞 第19回セビリアヨーロッパ国際映画祭 EFA部門観客賞
第39回エルサレム映画祭 国際映画部門審査員特別賞 第35回カステリナリア・ヤング映画祭 35周年名誉賞
第45回ルーカス国際こども映画祭 ヤング賞 第27回オウレンセ国際映画祭 脚本賞 第21回ブネー国際映画祭 最優秀国際映画賞

強い絆で結ばれた偽姉弟の愛に、不条理に手を伸ばす社会の闇。観ている僕らにも、冷たい現実を突き付けられる。混沌とした時代にしっかり目を向けなければならない。

磯村勇斗 (俳優)

愛があれば大丈夫、なんて言葉は、ダルデンヌ兄弟の映画には通用しない。でも、観終わった時、彼らはずっと教えてくれる、愛は美しい。偽りの姉弟の真実の愛に、心を扶られました。

中野量太 (映画監督)

「二人でいられればそれで幸せ」
恋人でも夫婦でもない二人からそんな気持ちを教えてもらい、ただただ幸せな気持ちになりました。トリの写真を見ながら食事をするロキタの姿を、劇場のみなさんで抱きしめてあげて欲しいです。

マキヒロチ (漫画家)

手をつかめるほどの魂の昇華を感じる。慰めも嘆きもいらぬ。これは血の繋がらない姉弟による、小さな幸せの日々を描いた名作だ。

樋口毅宏 (作家)

生きる事は かくも過酷で 切なく 尊いのか。サスペンス、社会性、愛の物語、全てが超一級

天童荒太 (作家)

愛の注ぎ方は冷酷だね。自分や身内には容易だが、血が繋がっていない他人に同じ量は難しい。正直それがほとんどの人間の常だ。それでもトリとロキタのような人たちはいる。「そんな世界もあるんだ」で消化できない何かを焚き付けてきた。

川上洋平 [Alexandros]

苛酷な現実の中で支え合うトリとロキタの逞しさが胸をうつ。どこか遠い国の話とは思えない。思っただけではない。この物語の続きは、いまを生きる私たちに託されている。

豊田エリー (俳優)

難民ボートの上で出会った日から姉と弟になることを決め、お互いの存在だけを支えに生きているトリとロキタの姿に胸がしめつけられ、一瞬も目を離すことができない。

中島京子 (小説家)

トリとロキタ。互い呼び合うその美しく切実な声に胸が締めつけられる。安易な救いや楽観を拒絶する作り手の静かな覚悟を感じた。

早川千絵 (映画監督 PLAN 75.1)

全員正しくて、全員間違ってる。自分には、ただそれを見ることしか許されない。「ロキタ」というトリのあの叫びだけが、いつまでも耳にこびりついている。

尾崎世界観 (クリープハイブ)

映画を観た気がしません。始めから終わりまで俳優ではない、生の人間が現場にいるかのような現実感です。

谷川俊太郎 (詩人)

彼らを巻き込む社会の不条理は人間の仕業で、荒波の中でお互いを助け合おうとする心も、どこまでも人間らしい無償の愛だ。矛盾ばかりの現実に言葉が失うしかない。悲しみを越えた2人の表情が忘れられません。

仲野太賀 (俳優)

トリとロキタ

「ロゼッタ」「ある子供」「少年と自転車」
ジャン＝ピエール & リュック・ダルデンヌ監督最新作

かつてない強度を誇る傑作に各界から絶賛の声！